

【日本語に敏感になる】

渡辺 私は教材を作るときに、しばしば子どもたちを実験台にするんです。例えば「涙が出るほどうれしい」と「飛び上がるほどうれしい」という表現がある、と話した後、尋ねてみたんです。「今年の冬にスキーに連れて行ってあげる、と言われたら、君たちは『飛び上がるほどうれしい』と話すだろう」と。そしたら、みんなは「はい、そうです」と答えました。では、電車の中で切符代を忘れたと気づいてあわてたときに、隣に座っていたおばさんが切符を買ってくれた。この場合はどうか」と聞いてみたら、「その場合も飛び上がるほどうれしいです」と答えるのです。

佐々木 その場合は、どちらかと言えば、「涙が出るほどう

連載 対談

言葉選びは心を探すこと 渡辺 実 ⇄ 佐々木 瑞枝

佐々木瑞枝(ささきみずえ)

日本語教育のエキスパートとして、世界各国からの留学生に教えるかたわら、数か所の日本語教師の養成講座でも後進の指導にあたっている。横浜国立大学留学生センター教授。



渡辺 実(わたなべみのる)

国語学を長く研究し、日本語表現の隅々まで造詣が深い。京都大学名誉教授。光村図書の国語教科書の監修を務める。



れしい」ですね。子どもたちは、どうして「飛び上がるほどうれしい」と答えたのでしょうか。

渡辺 子どもたちには、自分がピンチに陥って、人の力で助けてもらって涙が出るほどありがたい、という経験があまりないんです。言葉を知らないと、経験もなくなっていくものなのか、と考えてしまいました

佐々木 子どもたちが感動して涙が出るという経験は、確かに少なくなっているのかもしれない。今までいちばん思い出に残っていることを尋ねると、ほとんどの子が「ディズニーランドに行ったこと」というような答えが多いようです。「涙が出る」という表現は、心にゆとりがあって、人の好意に対する共感や感動がないと表せません。

渡辺 言葉がないということは、心がなくなりつつあるんだ、と私は思うんです。子どもたちとの何気ないやりとりでしたが、今後の国語学習

を考えるうえで非常に意義深いものでした。

佐々木 言葉の貧困に伴い、感情やセンスも弱くなっていくんですね。言葉は、国語という一つの教科の時間だけでなく、日頃から先生方が日本語に敏感になって豊かな言葉で教えていただくと、それに反応して子どもたちの感覚やセンスも磨かれていくでしょうから。

渡辺 そうしていただければ、子どもたちの将来にも期待できますね。からまつの葉が落ちる情景でも、桜の花が散る様子でも感動をしたならば、ぜひ言葉に書いてみてほしい。自分が感じたことはこういう心だったのか、と探し出すことができるはずです。言葉選びは、心を探すことでもあるのです。

【副用語は難しい日本語の代表格】

佐々木 渡辺先生の新著「さすが！日本語」（ちくま新書）を拝読させていただきましたが、「せっかく」「どうせ」「いつそ」など、たくさん副用語が紹介されていますね。特に、いちばん初めにお書きになられた「せっかく」の章は、とてもおもしろかったです。

渡辺 これは、私自身が経験したことを書いてみたのです。パリに滞在していたとき、非常に流暢に日本語を話すフランス人に、次の文をフランス語で言ってみてくだ

さい、と申し入れました。

「せっかくパリまで来たのに、ルーブルを見ずに帰るなんて残念だ。」

これは、ご本人にとってかなり難しかったようです。冒頭の「せっかく」をどのようにフランス語に置き換えればよいのか、わからないようなのです。

佐々木 「せっかく」のような副用語は、外国人にはかなり難しいのでしょうか。

渡辺 副用語を法則化して教えようと試みると、これもまた難しいのです。

佐々木 先生のご著書に「せっかく得意の料理を作ったのに、彼は食わずに帰ってしまった」という例文がありますが、私が留学生に教える場合は、まず、「努力をした」というセンテンスを設けます。

次に、センテンス2として、「食わずに帰ってしまった」としてみます。そして、自分の努力は、結局何もならなかったと捉えていくのが「せっかく」という言葉です、と教えます。感情がこもった「せっかく」は、やはり、その背後にある「努力をしたのに報われない」という気持ちが存在することを教えるわけではないかもしれません。

渡辺 その二つのセンテンスにまたがるような息の長い気持ちを表しているのが、「せっかく」なんですね。普

通の副詞は、ワンセンテンスに収まるものが多いのです。「せっかく」のほかに、「あまりに」も同じ具合に使いますね。

例えば、「あまりに○○なので、○○をした」という場合も、二つのセンテンスまで「あまりに」のリーチが及んでいます。これらの言葉は、外国語ではなかなか表現することができません。難しい日本語の代表格だと思います。

【結論までのプロセスをひと言で表現する】

佐々木 私は、あいまいな意味を持つ日本語について、「あいまい語辞典」（東京堂出版）という本で書いたことがあるのです。そこで触れたあいまいな言葉の中にも、副用語はたくさん含まれています。渡辺先生が著書の中で触れておられる「いっそ」も、意味はあいまいですね。渡辺先生の「シネマ見ましようか、お茶のみましようか、いっそ小田急で逃げましようか。」は、ある世代以上でないと理解ができない「いっそ」でしょうね。

渡辺 この例文は、昭和初期に流行した歌の一節です。この「いっそ」が意味しているものを外国人に教えることも、非常に難しいでしょうね。

佐々木 ええ、おっしゃるとおりです。私は「あいまい

語辞典」の中で、「私は日本にいても芽が出そうにない、いっそ外国に行ってチャレンジしてみよう」と書きました。この「いっそ」は、論理の筋道を何段階も飛び越えてしまっているケースです。

渡辺 それは、論理の飛躍を意味する「いっそ」ですね。佐々木 常識ではなかなか考えつかない結論にたどり着くときに使う「いっそ」と言えばよいのでしょうか。

渡辺 この国に住んでいる方でも、論理を飛び越えて結論を出していく思考は持っていると思います。ところが、結論にたどり着くまでのプロセスをひと言で表現する言語は、世界でも少ないでしょうね。

佐々木 おそらく、そうだと思います。今度、その難しい日本語を「日本語表現ハンドブックシリーズ」（アルク社）に私の監修・共著で書いてみたのです。「気持ちを表す副詞」というタイトルでまとめてみました。

渡辺 それは、おもしろそうですね。

【たった一年でここまで書くことができます】

渡辺 留学生は、どのくらいの期間で日本語を書くことができるようになるのですか？

佐々木 人によって多少の違いはありますが、約一年です。私が書いた「外国語としての日本語」（講談社現代

新書）には、留学生たちが書いた文章を本人の了解のうえで載せています。彼女は私のクラスにきたときには、既にある程度日本語ができましたが、「私は韓国の金さんと住宅難を研究していた」と書いています。

この場合、「ていた」の使い方が間違っています。多少の間違いはあってもほとんどの人がこのレベルを一年で書けるようになります。

渡辺 ここに書いてある「住宅についていろいろな質問の答えを聞いて欲しかった」とありますが、どういう意味でしょうか？

佐々木 それは、「質問に答えてもらいたかった」という意味だと思っています。「動詞＋て＋欲しい」（聞いてほしい）、「動詞＋て＋もらう」（聞いてもらう）のような日本語教育でいう「動詞＋て」フォームの使い方が外国人にとつては難しいのです。

渡辺 しかし、たった一年でここまで書くことができることには驚きました。ここには「きしゅうもりようぞくも」と書いてあります。これはどういう意味ですか？

佐々木 たぶん、辞書で「しゅうかん（習慣）」という言葉を引きいたら、「習慣、習俗、奇習、良俗」と書かれてあって、それらを参考にしたのだと思います。

渡辺 ずいぶんと難しい言葉を見つけ出すものですね。佐々木 私たちが外国に行って、一年でここまで書くこ

とはなかなかできません。留学生たちは、実によく自分の考えを書き表します。

国際社会の中で、日本人がうまくやっていくことができない、と言われていきます。その理由の一つには、自分の考えをきちんと表すという習慣が付いていない点も見過すことはできないと思います。留学生たちの自分の考えを表現しようとする熱意は、参考にしていかなければいけませんね。

【子どもたちはどんどん書いてみることです】

佐々木 例えば、今、私の手元にあるデジタルカメラには、長崎の「ハウステンボス」の写真があります。これを外国人たちに見せて、それをどのような言葉で表現するか、とみんなで考えることもあるんです。

このことは、国語教育にも応用できると思います。桜が散る状況を見たら、それをデジタルカメラで撮影しておくことを薦めます。また、インターネットで「桜」と検索すれば、それぞれの地域にしかない風景が写真入りで紹介されているはずです。それらを見て、文章を書いてみてもよいと思います。

渡辺 一部の学校では、子どもたちに画像を見せて、それを言語化してみることを薦めているところもあるよう

です。よい試みだとは思いますが、子どもたちにとって
は難しいかもしれない。

佐々木 確かに難しいかもしれませんが、子どもたちは
臆せず、どんどん書いてみる事です。子どもたちが思
っていることを、言えなかったり書くことができなかったら、先生方は助言そのものができませんからね。

渡辺 自分が見たものをすべて書くことはできません
が、感動したり、印象を受けたりしたものは、とにかく
書いてほしいです。

佐々木 これからの教育は、知識を詰め込むパッシブ
(受動) なものから、どんどん人に表現してみるアクテ
ィブ(能動)なものに変わりますから、ますます
書くことが大切になっていきますね。

【先生は子どもたちといっしょに言葉を楽しんで
ください】

渡辺 特に小学校の低学年を担当されている先生は、正
しいことを教えなければならぬ、と思っていられし
るように映ります。確かに、子どもたちは、先生は正し
いものだと思ひ込んでいます。そのプレッシャーからか、
先生方はいつも正しいことを言わなければならない、と
自己規制されているのではないのでしょうか。先生方は

から聞かれたら、先生方は困ってしまうかもしれませんが。
私は、そうした先生方に申し上げたいです。そこで子ど
もたちといっしょに考えてみて下さい、と。立ち往生
してもよいのですよ。先生方には、常に正しいことを教
えなければいけない、という自縛を解いてほしいのです。
そして、言葉の森に子どもたちといっしょに踏み込み、
おおいに迷ってほしい。きつと学ぶものは多いはず。
佐々木 私も、先生方は子どもたちといっしょに言葉を
楽しむとよいと思います。言葉について考える素材は、
テレビコマーシャルとか子どもたちがよく観るアニメな
どの中におもしろいものがたくさんあります。

よく使われる言葉には、「見えないルール」が隠れて
いることがあります。かつて、「赤信号、みんなで渡れ
ばこわくない」という言葉がありましたね。交通マナー
としてはよくないことですが、この表現をよくよく考え
てみると、うまくできているんだなと思います。「みん
なで渡れば」の「ば」は、条件を出して、論理的にも
ごとを考える時に使うものです。ですから、格言などに
多いのです。例えば、「犬も歩けば棒にあたる」、「チリ
も積もれば山となる」、「住めば都」などです。こうした
「ば」を使ってゲームをしてみよう、と子どもたちに呼
びかけてみるなど、先生も言葉遊びを楽しんでいただけ
ればと思うのです。

そこから解放されないといけないと思うんです。
子どもたちといっしょに言葉について考えたり、迷っ
たり楽しんだりしてほしいと思います。例えば、「悲し
い」とはどういうことを指すのか、「なつかしい」って
どういうことなのか、「なつかしい」と「恋しい」とは
どう違うのか。

「なつかしい」という言葉で思い起こすことがあります。
かつて日本に留学していたヨーロッパの女性が、久
しぶりに私の研究室を訪ねてくれたときの事です。彼
女は、私がドリップでコーヒーを入れる姿を見て、「な
つかしいですね」と日本語で話しました。あなたの国の
言語で「なつかしい」はどういうのかと質問したら、
「それにぴったりの表現はありません」と答えていまし
た。「なつかしい」という言葉の経験は、彼女は持っ
ていなかったのです。ところが、留学中に日本語で「な
つかしい」という言葉を学んだおかげで、その経験がわか
るわけです。「なつかしい」という感情を位置付ける受
け皿が彼女の心にできたのです。その受け皿が多ければ
多いほど、人の心はきつと豊かになります。だからこそ、
先生方には子どもたちに語彙教育をしていただきたいの
です。

「なつかしい」と「恋しい」のような似たような意味
を持つ言葉は、どこが違うのですか、と子どもたち

先生方が、どうしてこの「ば」はこのようになってい
るんだろう、とみんなと考えてもよいと思います。私自
身も、留学生たちに囲まれながら言葉の世界を最高に楽
しんでいるんです。これからもそうありたいですね。



この対談は、光村図書のホームページ (<http://mitsumura-tosho.co.jp>)
に「シーズン・メッセージ」として掲載したものと、「光村メールマ
ガジン」にその続きを掲載したものから抜粋しました。